

2016年夏学期レポート  
日本財団聴覚障害者海外奨学金事業

第9期生 瀧澤 泉

【夏学期(履修クラス)】

- EDU 665: Children's Literature (児童文学)
- IDP780 (Online): Supervised Practicum for Master of Arts Degree in International Development (大学院国際開発学部の監視下の実習科目)

EDU 665: Children's Literature (児童文学)

日付: 5月16日~6月9日(4週間の集中講義)

時刻: 毎週月・火・水・木曜 9時—11時50分(2時間50分)

教授: Bobbie Kite

必需テキスト:

- ・ Children's Literature (児童文学)
- ・ 教授から提案した絵本と小説(六冊)

課題内容:

- 1) 7つのジャンルの絵本(民話、昔話、生活、人物紹介、ファンタジー、ノンフィクション、ポエム)を一冊ずつ選択する。
- 2) ブログ/ビデオログ(vlog)のアップロード - 7冊分(7日間のみ)
- 3) グループプロジェクト(2人組)- 10冊
- 4) Critical Issue Study (重要課題研究) - 7冊分
- 5) 読み聞かせ練習

国際開発学部の必需・選択科目ではないが、卒業する時に必要な単位を満たすために学期ごとに必需科目と共に選択科目も取らなければならない。その上に自分の将来に関する絵本制作のためにクラスを取得したいと考え、春学期の選択科目を受けずに、その代わりに夏学期に受けることに決断した。そのクラスは必需の本(7冊)も含めて、毎日絵本を持参してクラスでディスカッション

することが主である。他にもグループプレゼン、批判レポート、読み聞かせ練習などアクティブ的な事を中心に行っていました。

#### 課題内容

1) 7つのジャンルの絵本(民話、昔話、生活、人物紹介、ファンタジー、ノンフィクション、ポエム)

七つのジャンルと教授から提案した絵本と小説の中で自分が気に入っているものを紹介したい。

#### 絵本・小説の紹介

「American Born Chinese」 “アメリカ生まれ中国人”

著者：Gene Luen Yang (ジーン・ルーアン・ヤン)

米系中国人のお話、著者も同様にアメリカで育った本人。とても面白く、興味を持ちつつスムーズに読むことができるような本である。同じくアメリカで生まれ育ったにもかかわらずアメリカ人からレッテルを貼られたり、中国人としてのアイデンティティを周辺から理解してもらえずに生活してきた物語。ファンタジーも混ざっていて面白い！その物語から「皆が知らない内にそんな風にレッテルを貼られているんだよ」という風に伝わって来るため、ハッと思うところがいくつかあった。アメリカ人は物語の一部に話されている「西遊記」を知らないのか、クラスの学生たちが「なぜ猿が出てくるのだ？」と疑問を持って議論していた。確かに西遊記は中国で元代から明代にかけて書かれた小説「四大奇書」で、日本でよく出てくる物語に関して自分でも知っている。やはり国ごとにそれぞれ持った民話や伝説などあって、人それぞれそのように話を聞いて育って来た環境は違うと著者が示したかったのではないか。

「Wonder」

著者：R. J. Palacio (R. J. パラシオ)

その本のタイトルは「ワンダー」。その話はほとんどフィクションだが、パラシオ氏の体験を基にしたものだろう。オーガスト(英語で“8月”という意味)という名前の男の子は生まれつきに奇形した顔で育って来た。学校でその顔のせいでいじめがあったが、その後に素敵なお話書かれてあった。(その本は去年、日本で発刊しているので興味のある方、悩みを持っている方、是非読んで

みてはいかが?) それぞれ違う視点から考えさせてくれる本でもある。絵本の読み聞かせや、ろう児にどうやって示すか、どのように教えるべきであるか議論し合った。初めて教育学部のクラスを受けたからなのか、教師になる或は経験を持っている学生たちの考え方が様々にあって参考になる。改めて「教育とは」と考えるとそれぞれ価値観があり、大人が教えるだけではなく子どもが大人に教えることもある。最近、友人の子どもと遊ぶ時があるが、ある絵本に男性であるはずが女の髪型のように見えるせいか、子どもが途中から「女?」と聞かれて「女でも男でもそういう髪型もいるんだよ」と自分が答えた後、子どもは考えながらまた改めて読み戻った様子を見て自分は気付いた。ろう児たちは、やはり目で見て覚えると共に周辺からの影響で自然に価値観を持つようになるのだと。こどもは千差万別な経験や物語を知りたい、学びたい気持ちがあるということ、そのためにはコミュニケーションを取れるような環境を作るべきであり、様々な絵本を読むことで自由に頭の中で想像しながら旅行できるので子どもが楽しむ方法を色々考えて行きたい。

他にろう・難聴に関する絵本がたくさん。

その中で気に入っている絵本を二つ挙げたい。

- 「The Deaf Musicians」

それはポエムのジャンルに合った絵本で、ろう者(デフ)が楽しくジャズのように手話で歌っている。確かに、ろう者たちの世界が豊富であり、視覚的なリズム感もあり、色とりどりもあって非常に気に入っている。日本に持っていきたい絵本の一つである。

- 「El Deafo」

エル・デフォー(Deaf デフと Hero ヒーローで一つ?)は難聴の女性が経験した話であり、共感できる、ユーモアなコミック式の絵本である。2015年に本のフェスティバルでその著者本人に会って、サインをもらった。意外と聴者たちにも人気である。その絵本のジャンルは人物紹介とファンタジーに含める。

2) ブログ/ビデオログ(vlog)のアップロード - 7冊分(7日間のみ)

教授と生徒のみ使用しているため公開できないが、絵本について読み、感想やクラスで学んだ資料を使用して解説するなど興味津々でブログのように毎日ジャンルを合わせて選んだ絵本を載せた。

### 3)グループプレゼン(2人組)

このクラスを受けているパナマ出身の学生と組んでろう学校の教師の役割をし、学生たちが児童になったつもりで「家族」についてアクティブしながら学ぶというプログラムを作りあげた。学ぶだけではなく、頭を使ったゲーム、或いは遊びながら知ることが重要である。何故、私のグループが「家族」を選んだか理由はグループ相手がレズビアンやゲイ達が受けた辛い経験話をクラス内にシェアしたことから始めた。

衝撃を受けたのは、パナマのろう学校の教師がゲイであると公表した結果、刑務所に服役させられたという。他に結婚する時も、自分自身がゲイであったり、レズビアンであったり、トランジェスターであったりする人たちは誰にも言えずに我慢して結婚している方や自殺する方などたくさんいるという話を持ち出された。つまり、家族の中でももしかしたら子どもでも言えず、または子どもに LGBTQ それぞれに持っているアイデンティティについてどう教えれば良いかなど苦しんでいる方がたくさんいるのかもしれない。グループの学生はパナマに LGBTQ コミュニティをサポートしたい気持ちが強いため、家族とは何かを考えてもらうことに至った。

まずは、プログラム内容を作りあげる前に日本とパナマの「家族」に関する絵本を10冊集めようと努力したのですが、日本の方は見つけたにもかかわらずにパナマの絵本はなかなか見つからなかったのです。テーマを少しだけ変えて異国の家族にしましたが、ゲイとレズビアン家族がアメリカ以外に見つからなかったということも含めて内容が段々難しくなるはめになった。つまり、宗教、伝統、文化、政治など主に示しているため、レズビアン、ゲイ、トランジェスターたちなど大切な存在が気づかないのではないか。或いは、その国には法律に禁止されているため絵本や小説を出せないというケースも少なくない。

当日のクラスに一つの案を出したが、親と子どもとの間に愛情を注ぐよう、或いは視野を広めるようにアクティブしながら楽しめる工夫をした。改めて子どもたちが楽しみながら学べるというプログラムを立ち上げるためには予想以上に難しく、プログラムを実行する当日の前までにゲームを作り、役割を分け

たり、(当日だけではなく)同じテーマを続けて次回の授業もスタンバイしたり、こどもたちに理解があるかどうかを確認しながら進めるのに必要であった。

今回は、様々な絵を作り、二人に組んだ子どもたちのおでこにあてて、どんな人が互いに言ってもらおう。好きなことは何？服装はどんな感じ？といったふうに作っていききたい。

#### 4) Critical Issue Study (重要課題研究) : 批判レポート

今回選んだテーマは身体障がい者の差別についてリサーチし、一部をクラス内にグループプレゼンと似たような内容でアクティブしながら「身体障がい」について教育する経験をした。自分が選んだ10冊の絵本はどれも奥深く、著者の経験話の絵本が多かったと気づく。他に重度障がい者に関する絵本を探したが、世界中に知られている盲ろう女性、ヘレン・ケラーの絵本しか見つからなかった。その結論によって、全体的に重度障がい者のことを気づかない人がいるかもしれないためクラスにプログラムの案を提供した。それぞれクラスの学生がいろんな身体障がい者になって、一日の生活を日記に書き、その後に経験について話してもらい、最終的にどんな気持ちかを議論しあうアクティブをする計画を立てた。本番で実行した結果、学生たちは意外とその存在を気づかなかつた。その人のために何ができるか議論し合い、重要な質問をもらったり、将来に自分がどのように作り上げるかなど、非常に良い経験を得た。

その課題のために調査した時に印象に残った絵本を見つけた。

#### 「Emmanuel's Dream」(エマニュエルの夢)

著者: Laurie Ann Thompson (ローリー・アン・トンプソン) と Sean Qualls (シヨン・クオルズ)

#### 【物語のあらすじ】

アフリカ西部にあるガーナで生まれた肢体不自由(片足)を持つ少年がいた。しかし、父親は片足のない息子を見て衝撃を受け、母親と息子を置いて出て行った。母親はシングルマザーとして息子を強く支え、息子が自立に生活できるようになり明るく成長していったが、ある日母親の重い病気でお金のない中息子はどう支えたら良いか考えた。600キロメートル位のレースを自転車で走り、母親のために優勝を得ようと決断。結果的に目標をやり遂げなかったが、周囲の人が少年に注目し、大勢の人が少年を励ますようになったきっかけで、

“disability is not inability” 「障がいとは不可能ではない」と少年は気づき、同じ障がいを持つ人々も支えたいと伝えるために今も懸命に活動し続けている。

#### 5)読み聞かせ練習

クラスメイトが全員で6人いるので6ジャンルから希望を選び、個人それぞれに読み聞かせスキル(12種類)を自分のジャンル絵本に合った本を使って読み聞かせを行った。自分が選んだジャンルは Contemporary Realistic Fiction (現代フィクション)のため、私の一番お気に入りの日本絵本家である酒井駒子が描いた絵本「ぼく おかあさんのこと…」(英語版)を見つけ、喜んでお話をクラスにシェアした。その絵本は言葉のリズム感があり、日本らしいな感情や行動がアメリカとは違うと自分は気付いた。当日の前夜までに懸命に練習したあげく、思いかけずに緊張して話を飛ばしてしまった時があったが、幸いにクラスメイトたちから良いアドバイスをもらい、今後のために練習するのに良い勉強になった。

#### □ IDP780 (Online): Supervised Practicum for Master of Arts Degree in International Development (大学院国際開発学部の監視下の実習科目)

日付: 6月13日(月) - 8月12日(金)

時刻: 週に3~4回通勤

教授: Alinda Boland

6月13日(月)から8月12日(金)まで2ヶ月間にワシントンD.C.州内にインターンシップを受けることになった。インターンシップ先は United States International Council on Disabilities (USICD) (障がい者に関する米国国際評議会)であり、障害者差別解消法(Convention on the Rights of Persons with Disabilities)の第32条国際協力について身体障がい者に対して資金を提供するには何のために使うか、どこへ行くのかなど調査するプロジェクトの一部にリサーチする機会をもらった。最初は範囲が非常に広く、資料やデータを集めて調査しつつ、原因や目的を絞るのに精一杯だった。それぞれ国の考え方や行動が異なるため、「国際協力」とは何の為に配属してあるのか、どんな形で支援をしているかなどを主にスタッフ達と協力しながら慎重に調べた。他の任務はメールマガジンに情報を追加するためにサイトやツイッターに身体障がい者に関する情報を探る、再生法508項に関する解説、USICDのロゴ作成など毎週に新しく与えられた。実習を受けている中、イベントが多くて週に1~3回位に参加した。例を挙げると、日本の身体障がい者団体たちと National Council on

Independent Living (NCIL)(自立生活に関する国民評議会)と議論する様子を見に行ったり、西アフリカにあるセネガル共和国(Senegal)に身体障がい男性が Peace Corps(平和部隊)を通して新しいビジネスを立てようと成功した人が USICD に来られてスタッフと共にセネガル共和国の現状について情報交換したり、インターンシップを受けている身体障がい者たちとの交流会に参加したりなど充実な時間を過ごせた。国際開発学部の教授や先輩たちの経験からによると「ネットワークが一番重要だ」とよく聞いたので、改めて今回のインターンシップを受けてうんと納得できた。自分のスキルと経験を活かすことは挑戦的だが、その経験を秋学期につなげて積極的に学んでいきたい。